



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2021年 No.4

(通巻71号)

8月1日発行

新型コロナウイルスの爆発的感染から1年半、一向に先の見えない状況が続いています。
加えて厳しい暑さも続きますので、くれぐれもご自愛の上、お過ごしください。

イベント報告

セネガル応援チャリティ企画

～本格的なセネガル料理（マフェ）を楽しく作りながらもっとセネガルを知ろう！～# 1

6月20日、活動資金集めの一環として、バオバブの会初のリモート料理教室を実施いたしました。
今回のイベントは、セネガルでスポーツを通じて障がいのある子どもたちの社会参加を推進するWITH PEERとの共同開催です。

WITH PEERの山本さんの進行で、参加者の皆さんとオンラインで交流しながら、ディウフ会長と一緒にマフェを楽しく作り味わいました。

料理に入る前に、まず「セネガルって、どんなところ？」ということで、国や人々の暮らし、歴史や文化を、スライドを使いながら紹介。セネガルのおもてなしの精神「テランガ」や人間関係を円滑にする「じゃれあい」など、ディウフ会長が臨場感あふれるトークでお伝えしました。

その後、レシピをチェックして調理開始。ステップごとに、ポイントを説明し、「皆さーん、大丈夫ですか?」「はい！（手でマル👍）」とコール&レスポンスで確認しながら進行しました。小学生の男の子も大奮闘。最後はとても美味しくできたと大好評でした。

マフェはセネガルの家庭料理ですが、日本人にも親和性のある「だし」の深い味わいがあります。シンプルな調理法で、子どもから大人まで美味しく食べていただけます。この機会に、それぞれのお家の「家庭料理」と進化して、これからも親しんでいただければ幸いです。

盛りだくさんの内容で、あっという間の楽しい90分でした。今回参加できなかった方は、ぜひ「見逃し配信」でセネガルとマフェ料理体験をお楽しみください。

※イベントの中で、共同開催者WITH PEERの活動を紹介しております。下記もご参照ください。

フェイスブック https://www.facebook.com/WITH-PEER-107184070943763/?ref=page_internal

ツイッター <https://www.twitter.com/withpeer>



イベントのお知らせ

セネガル応援チャリティ企画 【見逃し配信】！！

～本格的なセネガル料理（マフェ）を楽しく作りながらもっとセネガルを知ろう！～#2

多くのご要望にお応えして、6月20日開催のリモート料理教室の「見逃し配信」を行います！

期 間：2021年8月1日（日）～9月30日（木） *期間内に繰り返しご覧になれます。

参加費：1家族 1,800円

配 信：Youtube

申し込み方法：参加者募集はPeatixを使います。下記のURLからお申し込みください。

<https://senegalcooking02.peatix.com/>

たくさんの皆様のお申込み・ご視聴をお待ちしております。

詳細は別紙をご覧ください。

クール・サロリ・ブーヤ小学校鶏小屋計画ご報告

クール・サロリ・ブーヤ小学校の鶏小屋計画は、2月16日に到着したバオバブの会からの支援金により開始されました。

学校からのレポートによりますと、現在（6月30日）まで4回にわたり計250羽のひよこを購入し、157羽のにわとりを販売、販売総額は471,000Fcf（約94,200円）になりました。その都度の売却金は、新たなひよこ、飼料、ワクチン、6年生用ノート、模擬試験用紙などの購入に充てられていますが、余剰金も少しずつつうまれているようです。

この計画の運営は、生徒、先生方、保護者が、購入、飼育と鶏小屋管理、販売の3チームに分かれて行われています。

夏季休暇中は雨季で村の人々が農作業で忙しく、また、村を離れる先生方も多いため、鶏飼育は中断し、休暇明けに再開となります。

ケバサック販売のお知らせ

浜松町のアフリカンレストラン、「カラバッシュ」calabash.co.jpで、ケバサック、アフリカ関連絵本、アクセサリーを販売していただいています。

カラバッシュの営業は、現在（2021.7.12～8.22）、下記の通りです。

おいしいアフリカン料理と一緒にアフリカグッズのお買い物をお楽しみください！

ランチ 11：30～14：30 （平日のみ、土曜ランチは要事前予約）

ディナー 17：00～20：00 （要事前予約）

*夏季休業 8月13日（金）～8月17日（火）

人間には、運命を創り出したり、操作したり、少なくともそれに何らかの影響を与えることができるのでしょうか？

どのような文化の中にも、運命、つまり、あらかじめ起きることが決まっている、というのが、確信とはいえないまでも、ひとつの考えとしてあるようです。コートジボワールのディダの人々が、「いずれ現れるもの、それは大人の歯」注1と言うように。

それとともに、運命を操作することには限界がある、ということには、信仰を持っている人も持っていない人も誰でも同意するでしょう。イスラムを信仰する人、ムスリムに至っては、「我々人間は運命についてどのような働きかけもできない、すべてを操作できるのは創造者である神様だけ」とまで言っています。

それでは、何かが起きても、ただ腕を組んで通り過ぎていくのを待つべきだということでしょうか。いや、我々はそうしたいと思ってもできないのです。なぜなら、我々人間を含むすべての動物は、本来、「行動する存在」であるからです。そのうえ、人間は、幸か不幸か、現在の状況に満足できず、常により良くしていこうと行動せずにはいられないようにできています。

そのため、我々は、描いた目的が果たされるように、または望まない出来事を避けられるように、絶えずプランを作りながら生きています。しかし、そのプランがどれほど綿密で上手くできていたとしても、夢が実現するという確信はないし、望まないことを避けられるという保証もないのです。なぜなら、我々には、一秒先に何が起きるか、それどころか今この瞬間に何が起こっているのかさえわからないからです。ブルンジのフツの人々のことわざに、「畑の耕作に挑んだら、すねの傷に挑まれる」注2というのがあるとおりです。

それでもなお、人間は、運命に対して、何らかの、時には強い影響を与えるために行動するという、いわば本能によって生きていこうとしています。

親は、子どもの健康と幸福と未来の成功のために、できるだけのことをしようとします。

農民は、もっとも多い収穫が得られるように、また、自分の畑を虫や動物から守るために努力します。

会社の経営者は、ますますの発展を目指して毎年の計画を立て、それが達成できるよう、社員に褒賞を与えたり、罰を与えたりします。

政治家は、憲法上可能な限り立候補し、勝ち続けることができるよう、自らのイメージをより良くし、コミュニケーションの技術を磨くのに専念します。

さらに、そのような政治家の中には、自分には運命を変えるほどの権力があると思っている人々がいます。誰のことを言っているか、わかりますよね。

もちろん、アフリカのいくつかの国の指導者です。

しかし、このような政治家や指導者を見つけるのに、遠いアフリカまで行く必要はありません。もっと近いミャンマーで現在起こっていることでわかります。

こういった指導者は、一度独裁の地位に登ると、人々のお金と力を使って、自分に反対する人々を徹底的に弾圧し、いつまでも権力の座にとどまろうとします。そのため、彼らに抵抗し、その行動を阻もうとするのは、大変に厳しい戦いになります。

しかし、セネガルの人々は言います。「すべての地上の力は、いつか終わりを告げる。永遠に続く聖なる力を持っているのは、天上の神様だけ」注3

ですから、ミャンマーの人々は一時的には負けたように見えても、時間とともに、いつかは必ず勝つはずです。マリのモルの人々も、「**時間はすべてを動かす**」注4と言いますので。

さて、こういったことを理解した上で、心安らかに、またより良く生きていくためにはどうしたらよいのでしょうか？これには様々な答えがあると思いますが、ここではムスリムの考えを紹介しましょう。

ムスリムが理想とするのは、「すべてを覚悟する」生き方です。つまり、人生にはどんなことも起きるのだと思って生きることです。

そうすれば、何が起こっても、驚くことはないし、また落胆することはありません。

そして、良いことも悪いことも同じように受け止めます。良いことが起きれば神様に感謝します。悪いことが起きれば、解決するために、心身ともにわたる力を与えてくれるよう、神様にお祈りします。

また、神様は、「不幸なできごとを逆に利用して状況を変える」という考えも与えてくれます。ブルキナファソのモッシの人々は言います。「**もしお前の頭の上で水かめが割れたら、その水で体を洗え**」注5

我々の生活を根底から覆した新型コロナウイルス感染ですが、1年半を経過した現在も終息にはほど遠い状況です。しかし、このような中でも、新たなビジネスが生まれ、新しい働き方やコミュニケーションの方法が誕生していることは否定できません。

我々が未来について知ることができるのはあまりにもわずかですから、運命を操作しようとしても、実は運命に操作されているのが現実です。それでもなお、何とかして状況を変えようとする我々人間は、健気というべきか、哀れというべきなのでしょう。

注1 子どもによって、大人の歯、永久歯が生えるのが遅い場合があります。しかし、遅かれ早かれ、必ず生えてきます。このように、起こるはずのものは何物にも阻まれない、ということが出来ます。

注2 畑を耕そうとしたのに、予期せぬ足の怪我によって、立つこともできなくなることがあります。そうなってしまうと、畑のことなどどうでもよくなってしまいます。一般的にも、何かをやろうとしたとき、事故や病気といった思わぬことに阻まれて、できなくなる、やる気も失ってしまうことがありますよね。

注3 時間は世界を変えます。何物も時間には勝てません。今日できないと思われることでも、時間とともに、実現が容易になることもあります。

注4 アフリカでは、焼き物のかめを、水を入れるのに使います。女性たちが、井戸でかめに水をくんで、頭にのせて運びます。何かの拍子に頭のかめが割れれば、水はこぼれてしまいます。そのような場合は、その水をシャワーにして使えばよいのです。不幸なできごとからでも、何かを引き出すことができるということです。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0054 横浜市保土ヶ谷区西谷1丁目8-7 TEL 045 - 373 - 0059

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先: ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215

三菱UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no. 1523673

★HP : <http://the-baobab.org>

★Mail: info.the.baobab.assoc@gmail.com HP内の「お問い合わせはこちら」からご連絡いただけます。

★Face Bookページ名 : バオバブの会The Baobab Association

URL : <http://www.facebook.com/the.baobab.association>